

月刊アートコレクターズ

*The Pleasure To See.
The Pleasure To Buy.*

Art Collectors'

連報
白髪一雄、5億5千万円突破!

連報

ART NAGOYA 2014

夏の芸術祭2014 MITSUKOSHI×東京藝術大学

連報

鹿島 茂・林屋晴三
福田和也・山下裕二

連報

じつはこれ、
人の髪で
出来ています。



笹倉鉄平「20歳の横顔」



笹倉鉄平「20歳の肖像」



土田康彦「ラビアンローズ」

辰巳 もちろんありますよ。パリやフィレンツェは街そのものがアートのようと思え、そこにいるだけで感受性が磨かれて、みんながアーティストになってしまふような感じがします。その素敵な町並みを、たとえば作務衣を着て歩くときつこう注目されるんです。「それどこで買つたんだ?」なんて言われたり(笑)。こういう些細なことからでも、日本の文化に興味をもつていただけたら嬉しいですね。

辰巳 ウインに造詣がありですが、ワインとアートとの共通項はありますか?

沢山あるんですよ。

辰巳 ワインも芸術品ですから大いにあります。たとえばワインをティスティングする時に、その印象を絵画にたとえたり。あるいはコンテンポラリーアートを飾っている美術館のようなワインナリーもあります。たとえば圓碁は左脳のゲーム。

辰巳 ある種の美的感覚と結びついていて非常に面白い。伸び伸びしているとか、凝り固まっているとか、その配列が芸術的で美しい手ほどいい手だつたりします。数学と美というのも密接な関係です。素晴らしい公式ほど単純で美しい。美しいものがあるところに天才数学者は出現する。藤原正彦先生もおっしゃっています。日本現代アーティストの中ザワヒデキさんも、圓碁の作品を制作されていますね。緊張感の中に成立する均衡状態。圓碁を知らない人が見ても美しいと感じると思います。

辰巳 チャペルが丸ごと欲しいですね。ヴィル・フランシュ・シュル・メールにあるジャン・コクトーの礼拝堂もいいし、ラヌスの藤田嗣治の礼拝堂も素晴らしい。でも一番好きなのは、ヴァンスにあるマチスが手がけたロザリオ礼拝堂です。ス



中サワヒデキ「17の男」

私の好きな美術品 My Art

俳優

辰巳琢郎

Tatsumi Takuro

大阪教育大学附属高校天王寺校舎2年生の時、つかこうへい氏と出会い芝居に目覚める。京都大学文学部在学中は『劇団そばこまち』を主宰し関西一の人気劇団にする。昭和59年、卒業と同時にNHK朝の連続テレビ小説「ロマンス」にて全国区デビュー。以来、知性・品格・遊び心の三拍子揃った俳優として幅広く活躍中。自ら企画した2つの番組『辰巳琢郎の葡萄酒酒浪漫』(BSジャパン)と、『辰巳琢郎の家物語～リモ델☆きらり』(BS朝日)の他、ナビゲーターを務める『クラシック新時代』(クラシカジャパン)他が好評。著書に『道草のすすめ』『ゼロから始めるワイン』他。観光庁アドバイザー。国連WFP協会顧問。日本棋院評議員。



――今回の「マイアート」は、一人芝居や連続テレビドラマ、またクイズ番組など幅広く活動している俳優、辰巳琢郎さんです。京大出身らしいインテリな雰囲気と若々しいイメージが、お変わりありません。世界各地に赴いては、ワインナーなどを訪問する旅の企画もされています。

ワインへの造詣も深く、日本ソムリエ協会の名譽ソムリエにも任命されています。世界旅行に行く機会も多いそうです。そんな辰巳さんに、アートとご自分の関係についてお話を伺いました。

――絵を見ると「行きたい」と思って、自分で旅をつくります。

辰巳 美術館には小さい頃から行かれていたのですか?

辰巳 親に連れられてよく行つてました。本物に触れるというのは、良いものです。本物が制圧する空間に惹かれたことを覚えています。図録で見る平面世界と違って、絵具の層の分厚さだと目にすることも出来ます。今はバーチャルな時代ですから、かえって「リアル」さが大切なものになっていくでしょう。もともと僕は舞台出身ですし、「リアル」感が好きなのです。絵を見ると「この風景を自分の目で見たい!」との衝動にかられ、旅を計画してその場所に行くことも結構あります。

辰巳 どのようなアート作品をお持ちですか?

辰巳 イタリアのムラノに日本人で初めて工房を構えた、土田康彦さんのガラス作品

は良いですね。20年近いお付き合い。工房にも2度お邪魔しました。彼はコンセプトを作るのも上手だし、つねに新しいものを打ち出してきて、作風をガラッと変えるんです。いろんなシリーズの作品をもっていますが、ラグビーボールのよくなじむ花瓶が一番のお気に入りです。さらに長いお付き合いながら、画家のうな作品が一番のお気に入りです。

辰巳 鉄平さんの展覧会で「この絵が欲しい」とおねだりされて購入したのが、イタリア北部マッジョーレ湖のベスカトーレ島を描いた作品でした。もちろん7年後お話しを伺いました。

――その6年後のイタリアツアーのことです。チックエティッレで小さいボートをチャーターして1時間ほど走りポルトベネレという町に辿り着きました。その時、「ここは見覚えがある場所だな」とすぐ不思議に思つたんです。そして日本に帰つて鉄平さんの作品の図録を見ていたら、なんとそのまんまの風景を描いていました。タイトルは「ヴィーナスの港」。鉄平さんの描く風景は、実際の場所にとても近くさらに魅力的に描かれているんです。

辰巳 チャーターして1時間ほど走りポルトベネレという町に辿り着きました。その時、「ここは見覚えがある場所だな」といしました。しかしその後、残念ながら急死され……。会つた時の彼はヒゲをたくわえ、優しい目をして、ギリシャ哲学者のような雰囲気でした。舞台美術もやりたいとおっしゃっていたのですが、海外に日本の文化を広めて行きました

作家に興味がありますか?

辰巳 ホアキン・トレンツ・リヤドが好きです。僕が35歳の時、2度本人にお会いしました。しかしその後、残念ながら急死され……。会つた時の彼はヒゲをたくわえ、優しい目をして、ギリシャ哲学者のような雰囲気でした。舞台美術もやりたいとおっしゃっていたのですが、

――ありがとうございます。

辰巳 ホアキン・トレンツ・リヤドが好きです。僕が35歳